共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

NO　１８０３
２０１６年7月3日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL　２３－６０２３
FAX　２４－１６８４

ますます求められる沿岸資源増大への取り組み

サケマス流し網禁止によって、減少する水産水揚げ量を何としても最小限に食い止め、沿岸水産資源増大によってその分を少しでもカバーするためにも、沿岸水産資源増大へ向けた取り組みが以前にもまして重要となっています。

今週号は、主に市水産研究所などが取り組んでいる沿岸水産資源増大への取り組みの一部を紹介します。

稚ガニの１期手前のもの（市水産研究所ホームページより）

ハナサキガニ資源増大へ

ハナサキガニ資源の恒久的利用をはかるため、市水産研究所では、資源の維持・増大に取り組んでいます。平成１６年度からは、道栽培漁業振興公社の助成を受け、安定したハナサキガニ放流稚ガニを確保するために、育成技術の確立をめざして、種苗生産試験に日夜取り組んでいます。その結果、年々技術が向上し、放流稚ガニの数も年々増大しています。

種苗ふ化技術・生存率	
Ｈ２２年	48.0%
H23年	37.6%
H24年	67.1%
H25年	67.7%
Ｈ２６年	81.3%
Ｈ２７年	89.5%
Ｈ２８年	92.5%

市水産研究所の技術職員の皆さんの努力により右の表の様に急速に稚ガニの生存率が高まりました。特に生存率が上がった２７年は、２月下旬から３月下旬にヒーターで水温を８℃に維持し、給餌も三種類の餌を組み合わせる、水槽も細菌の発生を少なくする丸底水槽を一部使用するなど様々な創意工夫に取り組みました。

平成２６年から２８年には、稚ガニをそれぞれ３１万１千、３３万、３６万尾友知地先に放流しています。

総資源量維持に貢献

こうした取り組みによって、推定総資源量もこのところ微増傾向にあります。

オス１７年以上、メス２０年以上の推定資源量は、３４０万尾から３６０万尾前後となっているのではないかと推計しています。何よりもこのところの安定的な資源量の維持に貢献しているものと思われます。

問題はこれから地域が期待するような資源量を増大させるためには、放流稚ガニを３倍程度増やすことが必要となってきます。そうすると現在の市水産研究所の施設では不可能で、何らかの形で施設の拡充が求められる状況です。

ホッカイシマエビも

ハナサキガニ資源の増大とともに期待されているのがシマエビの稚エビふ化技術の向上です。ハナサキガニの稚ガニ生産が終わった後、市水産研究所ではシマエビの稚エビ生産に取り組んでいます。これは昨年から始まったばかりです。

本格的な取り組みは、今年度からです。

さらに、シマエビには、シマエビならではの難しさが横たわっているようです。地元の親エビの確保の問題やハナサキガニと比較して親エビ一尾が抱卵している数が極端に少ない（一尾４００粒ほど）等々です。

２８年度は、稚エビ３０ミリ種苗を何とか２万尾生産する技術開発に取り組んでいます。将来的には、安定的に３万尾の放流稚エビ生産を目指すとされています。

他の資源増大にも

さらに、北特法の基金を活用してナマコ、ウニ、アサリ、ホッキの資源増大も進めています。問題は、資源増大のための資金不足です。マイナス金利政策の影響で今後基金は、平成３０年には、今年より半減の８千万、翌年には７千万円となることが予測されており、資源増大への「地域財源確保」は喫緊の課題です。